

# やまぐちっ子学力向上だより

第 9 5 号 H30.8.6  
山口県教育庁義務教育課

## 全国学力・学習状況調査の結果が公表されました

「全国学力・学習状況調査」の結果が公表されましたので、概要をお知らせします。

### 全体的な傾向について

山口県 学力調査

検索

#### (1) 教科に関する結果

小学校では、全ての区分で全国平均以上、中学校では、区分によって差はあるものの、概ね全国平均と同程度という結果でした。

これは、子どもたちの努力はもちろん、各学校において、全国学力・学習状況調査と県独自調査を活用した年間2回の検証改善サイクルが定着し、課題解決に向けた授業改善やコミュニティ・スクールの仕組みを生かした家庭や地域との連携・協働による取組が組織的に行われてきたこと、市町教育委員会の支援などが積極的に行われてきたことの一定の成果が表れたものと考えています。

小学校	平均正答率 (%)	
	山口県	全 国
国語 A	72	70.7
国語 B	57	54.7
算数 A	64	63.5
算数 B	52	51.5
理 科	62	60.3

中学校	平均正答率 (%)	
	山口県	全 国
国語 A	77	76.1
国語 B	61	61.2
数学 A	67	66.1
数学 B	46	46.9
理 科	67	66.1

(平成 29 年度から、都道府県等における各区分の平均正答率は、文部科学省から整数値で提供されています)

#### (2) 児童生徒質問紙・学校質問紙の結果

全般的には、望ましい状況が多いと思われます。特徴的な点をいくつか取り上げます。

	児童生徒質問紙	学校質問紙
望ましい状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分にはよいところがある、人の役に立つ人間になりたいと思う子どもの割合が高い。</li> <li>○話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う子どもの割合が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っている学校の割合が高い。</li> <li>○学力調査の結果を県独自調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている学校の割合が高い。</li> </ul>
課題の みられ る状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平日に読書を「全くしない」と回答した子どもの割合が依然として高い。</li> <li>●地域や社会で起こる問題や出来事に関心がある子どもの割合は、減少傾向である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導をよく行っている学校の割合は、減少傾向である。</li> </ul>

# 算数・数学の課題解決に向けて

今回の調査結果では、小学校算数の「 $180^\circ$ の角の大きさを理解すること」や、中学校数学の「連立二元一次方程式を解くこと」などがよくできていました。一方、これまでと同様、小・中学校ともに「割合に関する問題」に課題が見られました。

## 小学校 算数 A 8

右の正答は**3**ですが、県内の30.1%の児童が**2**と解答していました。

これは、基準量と比較量を混同しており、 $200 \div 80 = 2.5$ と計算していると予想できます。各学校の子どもたちの状況はいかがでしょうか。子どもたちの典型的な誤答や傾向をつかみ、どこで躓きやすいのかを予想しながら日々の指導につなげてほしいと思います。

ある会場に子どもたちが集まりました。  
集まった子どもたち200人のうち80人が小学生でした。  
小学生の人数は、集まった子どもたちの人数の何%ですか。  
下の**1**から**4**までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 0.4%
- 2 2.5%
- 3 40%
- 4 80%



	正答率(%)
山口県	49.7
全国	52.9

## 中学校 数学 B 5

右の正答は $560 \div 3500 \times 100$ ですが、県内の20.6%の生徒が $560 \div 3500$ と100をかけていませんでした。これは、割合を表す式を書こうとしたものの、百分率の言葉の意味が分からなかったのかもしれませんが、9.2%の生徒は、 $3500 \div 560$ と解答しており、割合そのものの意味を理解していないことが予想されます。先の20.6%の生徒については、実際に計算してみると、商の値に違和感を覚え、百分率につなげることができた可能性はあります。

この問題では、与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができるかどうかが問われています。表にまとめられた情報を的確に読み取る力は、数学だけに限らず、他教科や日常生活でも使われる資質・能力です。

**5** 里奈さんは、バスツアーを利用して旅行することにしました。そこで、S社とT社のパンフレットから、次のような表にまとめました。

里奈さんが作った表

	S社	T社
プラン名	史跡巡りプラン	史跡巡りプラン
通常料金	1人3500円	1人3200円
団体料金	1人2940円	通常料金の10%引き
団体料金の利用可能人数	8人以上	10人以上

(1) 里奈さんが作った表から、S社の場合、団体料金は通常料金の560円引きであることがわかります。この560円は通常料金の何%にあたるかを求める式を書きなさい。ただし、実際に何%にあたるかを求める必要はありません。

	正答率(%)
山口県	13.6
全国	16.0

## S-P 表の活用について

今年度は、学校／学級別解答状況整理表（S-P表）が文部科学省から提供されました。学校の平均正答率だけでは把握できない、学級や個々の児童生徒の状況をより具体的に捉えることが期待されています。詳しくは、次回以降、あらためてお知らせします。